

報告書発行にあたって

本学は 2007 年度に財団法人大学基準協会の大学評価並びに認証評価を受審し、2008 年 3 月に適合の認定を受けた。これは、本学が長い間、積極的に自己点検・評価活動を継続し、不断の努力により改善・改革に取り組んでいることが評価されたものであると考えている。

本学の自己点検・評価活動は、学校法人東京工芸大学点検・評価規程に基づき、理事長を委員長とする学校法人東京工芸大学評価委員会が総括し、自己点検・評価委員会及び自己点検・評価小委員会等が作業部会となり推進している。

この自己点検・評価報告書は、2007 年度及び 2008 年度の点検・評価の結果をとりまとめて刊行したものである。本学では、この報告書をホームページで公表し、広く社会一般からの評価も受けながら、大学自身はその責務において継続的な自助努力を行ない、大学としての社会的使命を果たして行きたいと考えている。

点検・評価の実施並びに評価団体による評価の受審は、学校教育法において義務づけられているが、点検・評価はあくまでも大学の教育研究水準の向上に資することを目的とした自律的な取り組みでなければならない。そして、その点検・評価の結果を改善に結びつけていくことに本来の意義がある。

「東京工芸大学は、社会に有為な職業人の養成を目指し、確かな基礎教養の上に、先端のテクノロジーやメディアを用いて社会の発展のために活躍することのできる実践的人材と、工学と芸術学の知識・技術と感性を融合した新しい分野の創成に貢献できることのできる創造的人材を育成する」という本学の基本理念を実践し、教育を通して社会貢献を果たすことができるよう、これからも教職員が一丸となり、不断の改善・改革を推進していく所存である。

2009 年 1 1 月

学校法人東京工芸大学 理事長

学校法人東京工芸大学評価委員会 委員長

小 野 茂 夫